

# 統計だより

## 県内各市町の統計所管課だより（その16川棚町）

川棚町総務課 太田美智子

### 【川棚町の紹介】

川棚町は、長崎県のほぼ中央、佐世保市の南側に位置し、東には九州のマッターホルンといわれる峻険な虚空蔵山がそびえ、西には県立自然公園に指定されている風光明媚な大崎半島があり、町の中心部には大村湾へと注ぐ川棚川が流れる自然豊かな町です。



九州のマッターホルンといわれる町のシンボル 虚空蔵山

### 【歴史と人口】

本町には、戦後75年以上が経った今も、当時の面影を残す戦争遺構があります。

三越地区に大正7年に設置された「魚雷発射試験場」は、佐世保海軍工廠で製造された魚雷を発射試験するための施設でした。波静かで大型船舶の往来が少ない大村湾にあって、当地が、魚雷を発射し、その航跡を観測するのに絶好の場所だったため、設置されたものと伝えられています。

昭和17年には、佐世保海軍工廠は、軍備増産と空爆被害の分散を図るため、川棚町に分工場を設置し、翌18年にこの分工場が正式に「川棚海軍工廠」となりました。

川棚海軍工廠は、川棚町の海浜約20ヘクタールを埋め立てて急造された広大な施設であり、当時日本一の規模の水雷工場であったといわれ、雷撃機に搭載する九一式航空魚雷が製造されました。



魚雷発射試験場跡地に今も残る建物

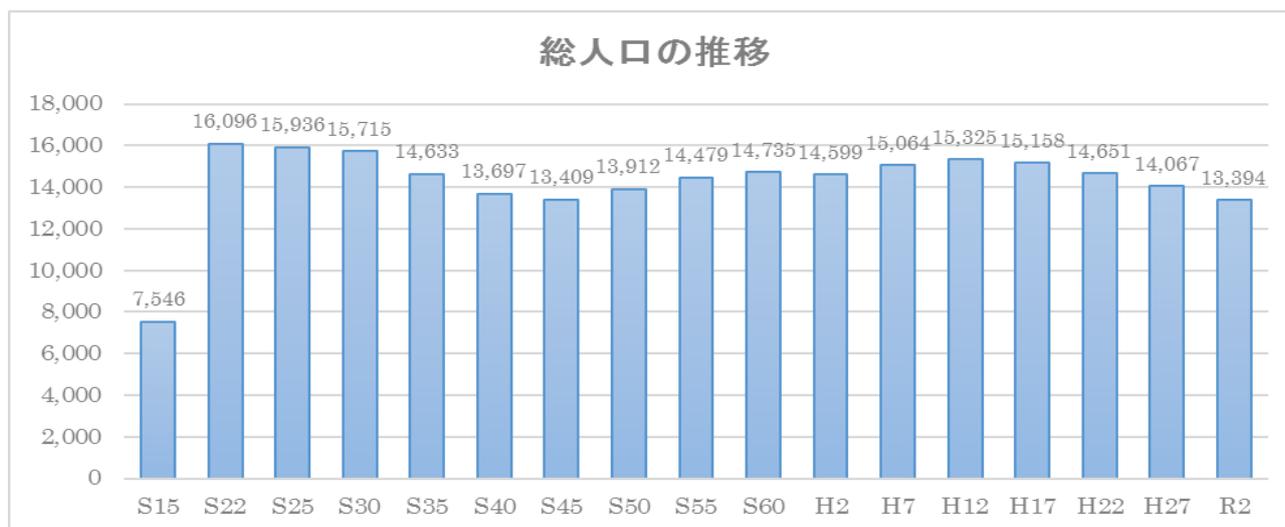
当時はこの工場のみならず、工員、職員、海軍技術者の住宅、工員養成所、勤労働員学徒の宿舎、海軍共済病院の建設など、広範多岐にわたる建設工事が昼夜兼行で推進されたことにより、昭和9年の町制施行時には7,600人ほどであった人口が1~2年の間に2万数千人にふくれあがり、地域の様相が一変したといわれています。

### 【人口の移り変わり】

終戦後、工場跡地への企業の進出で人口は増加に転じ、以降も平成4年にハウステンボスが開業した等の要因もあり緩やかな増加傾向が続きました。その後、平成12年にピークを迎え、しばらくは微増・微減で現状レベルを保っていましたが、若者の県外転出や少子高齢化の進行により、減少の一途をたどっています。

人口減少対策として、若者の働く場を創出し、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる町づくりを推進していくとともに、川棚町が本来持っている自然や歴史、文化などの素晴らしい町の魅力を全国に発信し、交流人口の増加にも繋げていきます。

～統計データ編～



国勢調査

	H7	H12	H17	H22	H27	R2
出生者数	161	131	156	114	106	102
死亡者数	128	120	135	151	170	170
自然増減数	33	11	21	△37	△64	△68
転入者数	771	664	661	547	523	548
転出者数	711	685	753	560	591	584
社会増減数	60	△21	△92	△13	△68	△36

住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査

### 【統計調査について】

今年6月に、全国すべての事業所・企業を対象とした令和3年経済センサス・活動調査が行われました。この調査は5年ごとに行われますが、今回は、調査対象期間がコロナ禍であったことから、調査結果は、新型コロナウイルス感染症が日本の産業においてどのような影響を与えたのか経済活動の実態や変化を表わす重要な指標となります。

このような状況の中、調査にご回答いただいた事業所・企業のみなさん、ありがとうございました。